

# なぜ？市町村合併

【人口】という観点から市町村合併を考えてみましょう

私たちは、すでに少子高齢化社会に足を踏み入れています。

この現実を直視して、将来のために、今を生きている私たちが「何をしなければならぬのか」真剣に考えなければなりません。

前回は、「総人口」についてお知らせしました。

今回は、国立社会保障・人口問題研究所が推計した将来人口の【年齢3区分別人口】をもとに検証してみましょう。



## 年齢3区分とは

- ・年少人口（0～14歳）
- ・生産年齢人口（15～64歳）
- ・老年人口（65歳以上）

## 日本全国の将来推計は

### 今世紀半ば

年少人口は現在の4割に

出生数は昭和48年以降、減少傾向にあり、その結果、年少人口も昭和55年頃の2、700万人から平成12年には1、851万人まで減少してきました。

低出生率のもとで、今世紀半ばには約750万人にまで著しく減少してしまいます。

年少人口割合の減少も急速で、平成12年の14・6%が、36年に10%を割り込んだあと、今世紀半ばには8・1%に減少します。

### 今世紀半ば

生産年齢人口は現在の半分に

生産年齢人口は戦後一貫して増加を続けましたが、平成7年の8、717万人をピークに減少過程に入り、今世紀半ばには、現在の半分の4、000万人台にまで減少してしまいます。

困ったら、その時に考えればよい。誰かが何とかしてくれる！



本当にそうですか？困るのは自分の子どもたちです。他人任せでは、自らの将来を展望することはできません。

生産年齢人口割合は、平成12年の68%が、今世紀半ばには52%になってしまいます。

今世紀半ば  
高齢化率は40%に

老年人口は、現在の約2、200万人から平成25年には3、000万人を突破します。老年人口割合は、平成26年に25%台に達し、日本人の4人が65歳以上になります。

老年人口は、平成30年から46年頃まで3、400万人台で推移しますが、人口割合は低出生率の影響を受けて上昇を続け、40年に30%台に達し、今世紀半ばには39%と4割が目前になります。

今から25年後、日本は1人の高齢者を2人で支える時代が確実に訪れます。



## 【日本の将来推計人口】

国立社会保障・人口問題研究所(低位推計)

項目 年	人口(千人)			割合(%)			
	総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上	0～14歳	15～64歳	65歳以上
平成12(2000)年	126,926	18,505	86,380	22,041	14.6	68.0	17.4
平成27(2015)年	124,661	14,593	77,296	32,772	11.7	62.0	26.3
平成42(2030)年	113,297	10,546	67,981	34,770	9.3	60.0	30.7
平成62(2050)年	92,031	7,486	48,683	35,863	8.1	52.9	39.0

